

めぐみイエス・キリスト教会

2021年7月4日(日)第一主日礼拝
週報「通算第564号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌397「神の御子にますイエス」 p. 636

【交読文】 No.9詩篇第27篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】 【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き9章36節～43節(新約p. 252下段)

【礼拝説教】 《ドルカスのよみがえり》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き9章36節～43節)

9:36 またヤッファに、その名をタビタ、ギリシア語に訳せばドルカスという女の弟子がいた。彼女は多くの良いわざと施しをしていた。

9:37 ところが、そのころ彼女は病気になって死んだ。人々は遺体を洗って、屋上の部屋に安置した。

9:38 リダはヤッファに近かったので、ペテロがそこにいると聞いた弟子たちは、人を二人、彼のところに遣わして、「私たちのところまで、すぐ来て下さい」と頼んだ。

9:39 そこで、ペテロは立って二人と一緒に出かけた。ペテロが到着すると、彼らはペテロを屋上の部屋に案内した。やもめたちはみな彼のところに来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

9:40 ペテロは皆を外に出し、ひざまずいて祈った。そして、遺体の方を

向いて、「タビタ、起きなさい」と言った。すると彼女は目を開け、ペテロを見て起き上がった。

9:41 そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちを呼んで、生きている彼女を見せた。

9:42 このことがヤッファ中に知れ渡り、多くの人々が主を信じた。

9:43 ペテロはかなりの期間、ヤッファで、シモンという皮なめし職人のところに滞在した。

●ポイント1. 「ヤッファ(ヨツパ)」とは？

■ヨツパ 「美しい」という意味。パレスチナ南部、エルサレムの北西56キロにある地中海に臨む港町。紀元前1800年にはすでに存在していた。紀元前701年アッシリヤのセナケリブによって占領され、紀元前400年頃にはペルシヤ領となった。さらに紀元前332年にはアレクサンドロス大王によって征服され、この町をヤフォからヨツパに改名した。その後にも、様々な国の支配下となったが、紀元前63年ローマ領となり、ポンペイウスがヨツパを自由都市としたが、紀元前47年カイザルがユダヤに返還した。

新約時代には、早くからここに教会があった。紀元70年のエルサレム陥落後も、パレスチナのキリスト教の中心地の一つとして存在していた。現在はテル・アビブに合併され、テル・アビブ・ヤッファと呼ばれている。

●ポイント2. シモン・ペテロが体験した同じ様な出来事とは？

※マルコの福音書5章35節～43節「ヤイロの娘」 (新約p.75下段右側)

●ポイント3. シモン・ペテロが行なった「ドルカスのよみがえり」とは？

※ヨハネの福音書14章12節～14節「私の名によって」 (新約p.214上段)

14:12「まことに、まことに、あなたがたに言います。私を信じる者は、私が行うわざを行ない、さらに大きなわざを行ないます。私が父のもとに行くからです。

14:13 また私は、あなたがたが私の名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私がそれをしてあげます。」

◎先週のメッセージの概要【アイネアのいやし】

《ルカは、「ペテロがあらゆるところを巡回していた時のことであった」と、書き記していますが、この頃は、サウロの迫害によって、多くのディアスポラのユダヤ人信徒が、祖国に戻っており、そこに教会を建てたのです。

そしてそれまでは、二人一組で巡回していた使徒たちは、もはや数多い新たな教会を回ることが難しくなっていました。それ故、使徒たちは、それぞれが新チームを編成して、巡回していたというわけです。ペテロは妻と通訳者ヨハネ・マルコと共に、伝道していたのです。パウロは、『私たちには、他の使徒たち、主の兄弟たちや、ケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。』と、書簡に書き記しています。

さて、ペテロの一行は、リダ(ルダ)にあります主の教会を訪ねた時、アイネアと言う名で、中風で8年間も床についている人に出会いました。

この時、ペテロの脳裏にあることが鮮明に思い起こされたのです。それは、彼が忘れもしない「カペナウムの家」にて行なわれた主イエスの奇跡です。すなわち、四人の人に担がれ屋根を壊して吊り下げられた中風の人のいやしです。ペテロは言います。「アイネア、イエス・キリストがあなたを癒やして下さいます。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」と。すると、彼はただちに立ち上がったのです。リダとシャロンに住む人々は皆、アイネアが歩き、飛び跳ねることを目撃しました。その町の人々に、リバイバルが起こったことは、決して不思議ではありません。

ここに、さらなる大きな群れが誕生したのです。いやしは、確かに素晴らしい奇跡です。アイネアのいやしがあったからこそ、この町にリバイバルがやって来ました。しかし、いやしと魂の救いとは別のものなのです。

一番の奇跡は人が救われることです。霊が新しく生まれかわり、永遠の命が与えられ、魂の傷がいやされることです。真の平安を得ることなのです。幸い私たちは、それを持っています。そして、一人でも多くの日本の人々が、この無償の贈り物を受け取って欲しいと切に願っています。》

◎お知らせ

※次回第二主日礼拝は7月11日(日)通常とおりに行ないます。第三主日礼拝は、7月17日(土)午後5時～6時に、日程を変更して行ないます。